

令和7年12月9日

◆藤井深介委員

公明党、藤井です。よろしくお願いします。

それでは、先週、本会議で一般質問を私はさせていただきました。そのときに観光客の分散、周遊を促す取組ということで、質問させていただきました。局長のほうから御答弁も頂きました、ありがとうございます。

この分散、周遊を促進するために答弁の中で、頂いた中で、デジタルラリーだとか、宿泊キャンペーンを実施しているということでの御答弁を頂きました。

そこで、これらの取組に関して、ちょっと何点か伺っていききたいというふうに思います。

それでは、まず初めに、今年度のデジタルラリーの概要についてお伺いしたいと思います。

◎観光プロモーション担当課長

今年度は、近現代レトロをテーマとしまして、県内にある観光関連スポットを巡る謎解きクイズデジタルラリーを10月10日から来年2月22日までの期間を3期に分けて、期間ごとに異なるコースを設定して、実施をしております。このデジタルラリーは、チェックポイントとなる観光スポットを訪れ、スマートフォンを活用して、出題される謎を解くことや訪れたスポットの写真を撮影することなどにより、ポイントを獲得できる仕組みとなっております。獲得したポイント数が多いほど、高額なプレゼントに応募できるものです。多くのスポットを訪れる動機づけにもなると期待をしているところでございます。

また、謎解きクイズやデジタルラリーに親和性のあるファミリーや若年層をターゲットとしまして、こうした層に知名度のあるかいけつゾロリをメインキャラクターに活用し、様々な媒体を通じ、効果的にPRを行うなど、参加促進に向けた取組を実施をしているところでございます。

◆藤井深介委員

異なるコースというふうに今、御答弁いただいたんですけども、具体的にはどういったコースになっているのか、伺います。

◎観光プロモーション担当課長

横浜、鎌倉、箱根という集客力の高いエリアを入り口としまして、その周辺の地域を組み合わせ、各地域の特色や周遊に資する時期、移動時間などを考慮し、三つのテーマ及びコースを設定しまして、多くの方に参加いただけるよう、工夫をしております。

組み合わせる周辺の地域としましては、魅力のある観光地域づくりを進めている三浦半島エリア、県央やまなみエリア、湘南西エリアといった、かながわ観光連携エリアを設定するなど、他の施策とも連動した上で、実施をしております。

例えば、現在第2期を実施中ですが、第2期は、海辺のグルメな旅としまして、横浜南部を入り口に横須賀、逗子、三浦、葉山などの三浦半島エリアを巡るコースを設定いたしました。この地域は、冬でも比較的温暖なエリアであることや、冬の家や港町の風景、グルメや美しいイルミネーション等との相性がよいため、11月21日から来年の1月4日にかけて実施をしております。

◆藤井深介委員

三つ御紹介いただいたんですけれども、これについて参加状況はどんな感じでしょうか。

◎観光プロモーション担当課長

先日、終了しました第1期の速報値ですが、1,424名の方に参加をいただいております。昨年度実施したかながわ歴旅ARラリーの同時期の参加者数と比較をしますと約1.5倍でございます、好調な出だしであると考えております。

◆藤井深介委員

分かりました。昨年からの1.5倍ということなんですけれども、その要因についてどのように考えておられますか。

◎観光プロモーション担当課長

今年度から、新たに謎解きの要素を加えたデジタルラリーを実施したことで、参加者の幅が広がったと感じています。具体的には、このデジタルラリーのような謎解きイベントには、一定数の固定ファンの方がいらっしやいまして、従来のデジタルラリー参加者に加え、こうした謎解きファンも参加していただけたものと認識しております。

また、謎解きと親和性の高いキャラクターである、かいけつゾロリをメインキャラクターに据えたことも影響していると考えております。

さらに、1日でも参加できるということを重視しまして、対象地域を絞りますとともに、獲得ポイント数に応じた商品をそろえたことで、参加者の増加につながったと感じております。

◆藤井深介委員

分かりました。

そのような工夫を凝らしていただいて、誘客というか、増やしていったということで、その御努力、本当に素晴らしいと思いますし、いろいろまたアイデアを出していただいて、進めていただければと思います。

それでは次に、宿泊キャンペーンの事業内容について伺いたいと思います。

◎観光プロモーション担当課長

宿泊キャンペーンですが、旅行の閑散期である冬の時期の宿泊を促進するため、昨年度に引き続きオンライン旅行予約サービス、いわゆるOTAを

活用した宿泊キャンペーンであるかながわ旅#プラス魅力体感キャンペーンを実施しております。

具体的な内容としましては、宿泊と地域の特徴を組み合わせた特別プランを造成したり、OTAの特設ウェブページでの特集記事の掲載や特別プランの販売、それから宿泊割引クーポンの配布などを実施しまして、県内の宿泊需要を喚起しております。

また今年度は、宿泊割引クーポンに加え、観光施設で使用できる遊び体験の割引クーポンも配布をいたしまして、滞在時間の延長、回遊性の向上も目指しているところです。

◆藤井深介委員

今回、このキャンペーン向けで、今、御答弁いただきました特別プランというんですけれども、この特別プランというのはどういうふうな内容なものなんでしょうか。

◎観光プロモーション担当課長

特別プランでございますが、このキャンペーンのために、県内各地域の宿泊事業者さんに食、旬、体験という三つのテーマと宿泊を組み合わせた地域の特徴ある宿泊商品を造成いただいているものでございます。幅広い宿泊事業者の参加を促すため、期間中7回、説明会を実施し、希望する事業者には、プラン内容に対するアドバイスをを行うなど、魅力あるプランの造成を県として後押ししております。

その結果、12月3日時点でございますけれども、キャンペーンの宿泊事業者の参画数ですが、121施設、特別プランについては、目標としていた100プランだったんですけれども、大幅に上回しまして、352プランが造成されている状況です。

例えば、大山地域伝統の味である、しし鍋と豆腐懷石を楽しめるプランなど、県内各地域の食、旬、体験を実感できるプランをつくっていただいています。

◆藤井深介委員

それでは、このキャンペーンに参画している宿泊事業者の反応、どういうふうにかかっているのか、ちょっと御紹介いただければと思います。

◎観光プロモーション担当課長

キャンペーンに参画して下さっている宿泊事業者様の反応でございますけれども、例えばキャンペーン実施前と比較し、実施後の予約が大きく伸びている、それから特別プランの売れ行きが好調であり、すてきな口コミも頂いたということ、それからお得感をアピールできて、お客様からの反応がよいなど、御好評を頂いているところです。

◆藤井深介委員

そういった意味では、おおむねいい受け止めをしていただいているというこ

となんですけれども、それでは、一番気になる宿泊割引の部分、このクーポンの内容について伺いたいと思います。

◎観光プロモーション担当課長

宿泊割引クーポンの内容でございますが、割引の対象となる宿泊期間は年末年始を除く12月1日から来年の2月28日までとしております。期間中、3回に分けてクーポンの配布を行いまして、配布期間に応じた宿泊可能期間を設けることで、例えば第1弾の実施に気づかなかった方も第2弾以降に参加できるなど、できるだけ多くの方に御参画いただけるように設計をしております。

さらに、昨年度の実績などを踏まえ、宿泊が多く見込まれる横浜、川崎や箱根以外のその他のエリアの割引額を高く設定いたしまして、利用を促進するとともに、県内全域への宿泊を促しております。

◆藤井深介委員

12月1日からでしたっけ、第1弾ですね、開始されたその直後ということなんですけれども、現在のその予約状況とか、現時点での実績について何かこう、分かる範囲で結構ですけれども、そのスタート時点でどういうふうな関係なのか、ちょっと御紹介いただけますか。

◎観光プロモーション担当課長

12月3日時点での予約状況でございますが、第1弾で御用意したクーポン枚数のうち35%以上が既に活用されており、好調な出だしであると受け止めております。

それ以外ですと、その他のエリアにおいて、こちらも12月3日時点ですが、クーポンを利用した宿泊予約の割合は、昨年12月と比較しまして約2.1倍など、特定のエリアや施設に予約が偏ることなく、プランの造成を行った大半の施設で、クーポンを利用した予約が獲得できていると把握しております。

◆藤井深介委員

今年から来年にかけて、長い方で9連休とかというのが随分ニュースでも出ていますけれども、そういった意味では、皆さん非常に興味を持っておられるんだらうというふうに受け止めました。

それでは最後に、そうした現在の取組を踏まえて、今後どのように本県を訪れる観光客の分散、周遊の促進に取り組んでいくのか、伺いたいと思います。

◎観光プロモーション担当課長

持続可能な観光の実現のためには、まだあまり知られていない県内各地域の魅力ある観光資源をPRし、行き先の選択肢を増やすことで、観光客の分散、周遊を促すことが重要であると考えております。そのため、今後も場所と時期の両面で、観光客の分散、周遊を促す様々な取組を実施することで、県内全域の観光振興につなげてまいります。

◆藤井深介委員

分かりました。

先ほど、御答弁の中でも頂いたんですけれども、いわゆる体験というのも随分あれなんですけれども、近年、トレンドというのは、いわゆる目的地というよりは、何かこう、ストーリーと言うかね、その一歩先、体験はするんだけど、その歴史的なことだとか、様々学ぶところというのをやっぱり随分また求めていらっしゃるんだろうなというふうに思います。いわゆる有名地を見るとか、その現場に行くというだけではなくて、そういった物語を体験していくというふうな、そういうのも一つのトレンドとして来ているようです。

また、いろいろ体験、先ほどの旬のものだとか、いろいろ、分散、周遊のための手を打っていただいているのは、実感としてよく分かります。その中で、また一つの神奈川県、一般質問でも言いましたけれども、やっぱり海があって、山があって、神社仏閣があって、様々ストーリーというのは、つくっていきそうな気がします。どなたか有名な方にストーリーやっていただければあれだと思いますし、まあ何と言っても、以前ちょっと調べたら、神奈川県というのは、龍、やっぱりドラゴンとつのが、やっぱりいろんなところでやっぱり名所があるので、そういったところで、うまく歴史の勉強とも引っかけて、また提示していければ、また違った客層というか、長期滞在型ということもまた、つくっていきけるのかなというふうにも思います。

それと、やっぱり神奈川県内、私もちょっと聞いてみたら、県内での宿泊がなかなか少ないというのは、やっぱり東京がやっぱりいわゆる五つ星、七つ星、もういろんなホテルがあって、その広さから何からサービスから、やっぱり十分満足するので、やっぱり東京に行っちゃうという話もちょっと聞いたことがあるので。そういった意味では、ちょっと民間の皆さんのやっぱりお力は頂くしかないんですけれども。そういったところも併せて、ちょっとまたいろんな誘致を考えていただいて、ぜひ神奈川県の観光という、まあいわゆるあの、ごみを捨てるような人というのは、あんまり言えないでしょうけれども、それでは困ります。いわゆる品のいいお客さんに来ていただけるような、そういう施策をやっぱりしっかりされていかなければいけないというふうに思います。

で、あとは令和9年、GREEN×EXPO 2027が開催される、それに合わせて、神奈川・横浜destinationキャンペーンということで、こう重層的に企画もされていますので、こういうときが一気に、本県に多くの観光客を誘致できるというふうに思いますので、そのせっかくの機会ですので、それをやっぱりしっかり生かしていけるように、また引き続きの御努力をいただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、共生共創事業についてなんですけれども、これまで県では、年齢や障害などにかかわらず全ての人が舞台芸術を楽しむことができるよう、共生共創事業に取り組んできたというふうに承知はしております。文化芸術に気軽に触れることのできる機会をより多くの県民に提供するという意味では、非常によい取組だというふうに考えておりますので、それに関連して、お伺いをしていきたいと思っております。

それでは、まず初めに、共生共創事業の概要について確認させてください。

◎マグカル担当課長

共生共創事業は、文化芸術の分野においても、ともに生きる社会かながわの実現に寄与するため、年齢や障害などにかかわらず子供から大人まで全ての人が舞台芸術に参加し、楽しめるよう、ともに生きる、ともに創るをキャッチフレーズに掲げ、平成30年から実施している事業でございます。

具体的には、高齢者向けの事業として、県営団地におけるシニア合唱事業、そしてシニア劇団の運営を行っているほか、障害者の参加による演劇公演、多文化共生を題材としたワークショップなどを行っております。

◆藤井深介委員

それでは、今、御答弁にありました年齢や障害などにかかわらず全ての人が楽しめるような事業を展開してきたということはよく分かりました。理解できました。

高齢化が急激に進んでいる現在のこの社会情勢を踏まえていきますと、高齢者を対象とした事業の重要性が非常にやっばり増してきている。孤独だとか孤立だとかという言葉が氾濫するような時代になってきておりますので、そういった意味では、事業の重要性が大きく増してきているんだと思います。

そんな中で、今、県営団地におけるそのシニア合唱ですね、今、御答弁いただきましたけれども、このシニア合唱について実施に至った経緯だとか、事業内容について、まず伺います。

◎マグカル担当課長

シニア合唱事業は、高齢化が進み、コミュニティの活力が低下している県営団地において、文化芸術の振興とともに、団地におけるコミュニティの活性化や未病改善などの事業を推進することを目的に令和4年度から開始した事業でございます。

具体的には、県内に200ある県営団地の中の10団地を対象に事業を実施しておりまして、団地内の集会所を会場に月1回程度の頻度で合唱の練習を行い、半年に1回は、クラシック音楽などの演奏を聞いていただくミニコンサートも開催しております。

また、練習に参加している住民が日頃の活動の成果を発表する成果発表会も年1回開催しております。

◆藤井深介委員

御答弁にありました10団地で実施しているということなんですけれども、県営団地は、県内に200あるということなんですけれども、その中で、その開催団地はどういうふうに決めていくのかというのは。

◎マグカル担当課長

事業を実施する県営団地の選定につきましては、県営団地を管理している県土整備局が団地等の窓口となりまして、文化課と連携して、調整を行ってまいり

ました。

具体的な選定の流れを申し上げますと、シニア合唱は、団地内の集会所を用いて、合唱の練習を行うため、20名以上収容可能な集会所を有する団地をまずリストアップしまして、そのリストの団地の中から、団地の自治会への参加意向や集会所の空き状況などを確認し、事業が実施できそうな団地の候補を絞り込んだ上で、承諾いただきました団地を最終的には実施する団地として、選定しております。

◆藤井深介委員

先ほど、御答弁いただいた中で、合唱の練習だけではなくて、成果発表会も開催しているということなんですけれども、その意義とか効果、よろしく願います。

◎マグカル担当課長

例年1月頃に成果発表会を開催しておりますが、発表する機会を設けることで、日頃の合唱の練習に明確な目的ができ、練習にも力が入りますので、これが成果発表会を行う大きな意義だと考えております。

また、ほかの団地の合唱を聞いてモチベーションが上がったり、複数の団地で一緒に合唱することで団地間の交流が図れることも成果発表会の効果だと考えております。

なお、ふだんの合唱の練習は、団地の集会所で行っておりますが、成果発表会は、日本初の本格的な公立音楽専用ホールである県立音楽堂で開催しておりますので、参加する団地住民の方からも、音楽堂のようなすばらしい施設で歌えることを楽しみにしているなどの好意的な御意見を頂いております。

◆藤井深介委員

その合唱の参加者からやっぱりアンケートとか、もし取られていたら、その内容と、どういったことを書いていらっしゃるのか、教えていただければと思います。

◎マグカル担当課長

合唱の練習参加者には、毎年、年度の後半に、またミニコンサートと成果発表会の参加者には、その都度アンケートをお願いしております。

一部、実際に寄せられた御意見、御紹介させていただきますと、合唱練習の参加者からは、大きな声を出して歌うことができ、楽しい気分になった、少し明るくなり友達も増えた、生活に張りが出たなどの御意見を頂いております。

また、ミニコンサートの参加者からは、最近では生演奏を聞く機会がなかったので気持ちがリフレッシュした、ピアノ、バイオリンの生演奏が心に染みたなどの声も頂いております。

このほか、成果発表会の参加者からは、音楽や歌を愛する方や大勢の皆さんと大きな県立音楽堂のホールに集まることができて幸せだった、人とのつながりが感じられた発表会だったなどの感想を頂いております。

アンケートで実際に寄せられた声、御意見からは、この活動が団地でのコミュニティの活性化ですとか、あるいは参加住民の未病改善という部分でも一定程度、寄与しているものと受け止めております。

◆藤井深介委員

参加者から大変肯定的な御意見が多かったというふうに思いましたけれども、このシニア合唱というのは、県営団地に居住する住民、また近隣の住民を対象とした事業だということなんですけれども、当然のことながら、団地にも大小もありますし、様々あの、温度差もあるんじゃないかというふうに思うんですけれども、今後この事業を進めていく上での課題というのはどういうものがあるのかということと、それから課題に対して今後どのように取り組んでいくのか、併せてお伺いします。

◎マグカル担当課長

事業を進める上での課題でございますが、合唱の練習に多くの参加者があり、活動が活発な団地と、一方で、合唱の練習への参加者が少なく、活動が定着しない団地がございます、議員御指摘のとおり、団地ごとに温度差があるという現状がございます。

一方で、プロの演奏を身近で聞けるミニコンサートは、どの団地においても一定の参加者数がありますので、合唱練習の参加者が少ない団地については、まずは、このミニコンサートへの参加により、仲間と音楽を楽しむことに慣れていただきまして、それを合唱練習につなげていくことで、練習の出席率が向上するよう、取り組んでいきたいと考えております。

◆藤井深介委員

まあ合唱は、そうなんですけれども、先ほどシニア劇団のちょっと御答弁いただきましたけれども、実際シニア劇団のこれまた傾向だとか、ちょっと合唱とまた違った形になると思うんですけれども、公演に参加した方々の何か反応はあるんでしょうか。ちょっともし具体的にあるようでしたら。

◎マグカル担当課長

シニア劇団の参加者からの声でございますが、こちらシニア劇団の劇団員に定期的にアンケートを実施しております。

一部、御意見を御紹介させていただきますと、例えば入団1年目の劇団員からは、定期的に稽古に出かけるようになり体調管理への意識が高まった、緊張もしたが楽しいことが増えてうれしいなどの声を頂いております。

また、入団2年目以上の方の中には、先日体調を崩して入院したが、劇団への参加を励みに頑張って退院することができたというような声を下さった方もいらっしゃいます。

アンケート回答者の約7割の方が、心と体が元気になったと回答していただいておりますので、劇団の活動を励みにして、こちら未病改善の意識が高まって、日常生活によい影響が出ているものと受け止めております。

◆藤井深介委員

7割の方から、いい反応が来ていると、元気になったということで、本当にいいことだというふうに思います。

そういった意味で、参加者から前向きな意見があるということは、今の答弁で分かりましたし、これはもう当然、この事業の成果だというふうに思います。

これまでシニア劇団を運営してきている中で、県として感じる課題だとかがあれば、それを教えていただきたいのと、その課題に対してどういうふうに今後対応していこうとしているのか、併せてお願いします。

◎マグカル担当課長

シニア劇団につきましては、設立当初から県主導で運営してきましたが、将来的には、各劇団が自立して活動を継続できるような事業を進めていく必要があると考えております。

そこで今後は、劇団員が主体となって公演の企画をしましたり劇団自体を運営していけるよう、人材の育成ですとか、体制づくりの支援、こういったものもしていきたいと考えております。

◆藤井深介委員

これまでシニア合唱、それからシニア劇団について様々質問させていただきましたけれども、それではこの取組について最後に、今後のこの共生共創事業についてどのように取り組んでいくのか、伺いたいと思います。

◎マグカル担当課長

シニア合唱、シニア劇団ともに高齢者の方々が笑顔で、やりがいを持って日々の活動に参加できるよう、県としてもしっかりと支援していく必要があると考えております。

そこで、シニア合唱につきましては、昨年度から新たな取組として、成果発表会とは別に、みなとみらいホールを会場に開催されている、うたフェス J A P A N という合唱イベント、こちらに10団地の有志による合同チームで参加するといった団地の枠組みを超えた取組を新たに実施しているところでございます。

また、シニア劇団につきましては、今年度、綾瀬のシニア劇団が市外を会場とした公演にチャレンジいたします。具体的には、桜木町の近くにありす横浜にぎわい座の、のげシャーレという劇場になります。今週末の土曜日、日曜日に公演するのですが、チケットは早々に完売し、多くの方から関心、示していただいております。

こうした新たな取組や共生共創事業の幅の広がりはもちろんのこと、参加者の皆様のモチベーション向上、刺激にもつながるものだと考えております。

共生共創事業は、高齢者を対象とした事業のほかにも障害者の方々に参加していただく企画ですとか、多文化理解を深める企画、こういったものも実施しておりますので、こうした様々な取組を通じまして、年齢や障害にかかわらず全ての人が舞台芸術に参加し、楽しめる機会を提供することで、文化芸術の面から、

共生社会の実現につながるよう、引き続き取り組んでまいります。

◆藤井深介委員

ありがとうございました。

団地ですので、いらっしゃる方、もともと合唱も演劇もやられた方もいらっしゃるかも分かんけれども、全くの素人の方もいらっしゃる中で、それをきちっとまた教えていただいているプロの方々、この音楽にしてもですね、その方々が本当に一緒になって、その団地の再生、また未病の取組だとか、様々な形で取り組んでいただき、それこそ本当に神奈川県の良いところなんだろうというふうにも思います。

で、やっぱりあの、お一人の方、また高齢の御夫婦の方とか、いろんな方がいらっしゃいますけれども、やはり人間の一番強いというのは、やっぱり思い出づくりというか、一緒にあのときやったよね、一緒にステージで歌ったよね、演劇したよね、今度はもっと大きなところでやりたいねという、それがまた本当に、生きがいにもなってくるんだろうというふうに思いますし、この共生共創事業というのは、本当に年齢とか障害にかかわらず、あらゆる人が参加していただいて、楽しんでいただいているという事業ですので、ぜひ。まあやっぱり人間の集まりですから、間違いなく課題は多いです。それはもう分かります。なんだけれども、やっぱりそれを乗り越えて、またやっていくところにすばらしさというのが来るんだろうというふうに思います。

引き続き、県当局の皆さん大変だと思いますけれども、その辺りも酌んでいただいて、引き続きの御努力いただければと思っております。よろしく願います。

以上でございます。